

われ「日本では一億の人間が、汚染物質や毒物でモルモットのよりにテストされている。欧米ではネズミやウサギですることを、この国では人間で行ない、全人類のために暗示を与える役割を引受けている。」と皮肉たっぷりに、日本人の置かれている危機的状況を伝えているというのに、日本の政治家達の間では、保守、革新を問わず、この時点に至ってもまだ、環境汚染という何よりも重大な問題に、心から真剣になつて取組もうという姿勢は見られない。

では、このような時期にあつて、私達一般市民は今迄この問題にどのように反応していただろうか。私達はこれまで余りにも傍観者でありすぎたとは言えないだろうか。

水俣病に代表される有機水銀中毒事件や、イタイイタイ病、カネミ油症事件等々、様々な公害病が世界中に知らされ、その実態が各国の人々に、公害のもたらした人間の破局の姿として恐怖の目で見られているにもかかわ

私達とは全く無関係の、どこか遠い国の出来事のように見てはいなかつただろうか。かえりみれば、このような私達自身の無知、無関心が、公害企業を膨張させ、私達の住む環境をとりかえしのつかぬほど汚染させてしまった大きな原因とも言えるだろう。

ところが最近、山形県の吉野川流域を始めとして、日本の各地で相次いでイタイイタイ病に類似した疾患が発見され、また更に、米、卵、魚、貝類といった私達の日常生活に欠かすことの出来ない食品までが、重金属やPCBといった化学物質で汚染されていることが判明するに至り、私達は今も早、この問題を他人事としてかたづけずさせることは出来なくなつた。

私達は、私達の子供や孫、そして私達自身の健康を守るためにも、今すぐ何らかの行動を起こす必要に迫られている。

現在日本各地では、七百余りの自然保護団体が市民の手によつて組織され、環境を汚染や破壊から守ろうと、真剣な活動を展開している。私達、直接行政に関与しな